

コロナ経済危機の真因

東京大学教授
渡辺 努
わたなべ つとむ

- *統計が間に合わない
- *ビッグデータの利用
- *統計の民営化
- *行動変容のルート
- *小さかった介入効果
- *自発的变化にこそ効果
- *主因は需要不足
- *恐怖心が危機もたらす
- *観光のみ危機の連鎖
- *メディアは理解不足



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、東京大学の渡辺先生においていただきました。この会では初めてでございます。1959年のお生まれで、日本銀行に入られ、ハーバード大学でPh.D.を取得され、その後、一橋大学を経て、現在東京大学で教鞭を取っております。

経済の状況は、皆さんお感じのようにコロナの影響でさまざまなマイナスの影響がございますが、これからどうなっていくのか、また何が必要なのか、そういったことがあまり明確に受け取れないでいます。しかし、今日は、理論的な面も含めて渡辺先生からその辺のところを詳しくお話しいただけると幸いです。

それでは先生、よろしくお願いたします。

統計が間に合わない

渡辺 ただいまご紹介いただきました東京大学の渡辺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は「コロナ経済危機の真因」ということで、どういうメカニズムでこういう危機が今、経済面で起きているのかということについてお話をさせていただけだと思います。

いろいろな議論がこの一年間、コロナの中でされてきました。経済についてもされてきたと思いますし、実際にさまざまな経済対策もなされてきている。けれども、率直に言って、どういふメカニズムが起きているのかということについてあまり正しい理解を持たれていないとは思